

「KS(危険察知)活動」の取り組み

◆目的

- ①作業や実験を始める際に、そこに潜む危険や事故を想像、察知し、意識することにより、「事故・災害」の発生を未然に防止する。
- ②危険や事故に対する感度やセンスを高め、「危険察知能力」を向上させる。
- ③一人ひとりが「自らケガをしない」そして「仲間からケガ人を出さない」という、研究室内の安全意識を醸成する。

◆実施方法

- ・作業や実験を始める前の「5分間」で実施する。
※ほぼ同じ実験を繰り返す場合は、差異・変更点について都度実施
- ・思い付く限りの「危険」や「事故」を想像、想定する。
- ・声に出して、「指差しチェック」を行う。
- ・対象範囲は、「準備～後片付け」まで。
- ・実施する作業、実験項目に関し、「リスクアセスメント実施報告書」を確認する。
※リスクと対策を再確認
- ・可能であれば、複数人で実施する。(指導者や経験者を入れて)
- ・気付きのヒントとして、関連するKSシートを活用する。

◆使用ツール

・当年度の「リスクアセスメント実施報告書」

・KS(危険察知)シート

※実施する作業・実験のリスクに該当するシートを参考にする

KSシート1 ～ガラスで手を切る～

KSシート2 ～工具で手を切る～

KSシート3 ～薬品・溶液が付く～

KSシート4 ～火傷・感電～

KSシート5 ～挟む・転ぶ・打撲～

KSシート6 ～発煙・発火～

リスクアセスメント実施報告書

作業・実験の名称	実施日時(年・月・日)	実施場所	実施者	指導者	リスク評価	リスク低減策	実施結果	評価者	評価日
1									
2									
3									
4									
5									



「リスクアセスメント」と「KS(危険察知)活動」は 車の両輪で！

リスクアセスメント

- ◆ 研究室内のリスクを、体系的・網羅的に洗い出し、リスク度合を評価
(前年度実施分の再確認)
- ◆ 対策(物理的、管理的、保護具)を検討、確認

- ◆ 年度初めに全員参加で実施
- ◆ 新規実験・設備導入時に追加実施
- ◆ 事故が発生した際は再度実施

KS(危険察知)活動

- ◆ 考えられるリスク、危険、事故を具体的に想像、察知
- ◆ 指を差して、チェック
- ◆ 「準備」～「片付け」までが対象範囲

- ◆ 作業・実験の都度、開始前の5分間で実施
- ◆ 複数人で実施(可能ならば)

